様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 10 日現在

研究種目：　若手研究（Ｂ）
研究期間：　2007～2009
課題番号：19720065
研究課題名（和文）　アメリカ・ルネッサンス期文学における風景及び空間表象のイデオロギー分析
研究課題名（英文）　Analysis of Ideologies in the Landscapes Represented in the Literary Works of American Renaissance

研究代表者
城戸　光世　（KIDO MITSUYO）
北九州市立大学外国語学部・准教授
研究者番号：10351991

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、19 世紀のアメリカ・ルネサンス期の文学研究、特にナサニエル・ホーソーンの諸作品の研究に、風景論や空間論といった新しい学際的アプローチを取り入れながら、作品に表象されている風景や場所、空間などに反映された歴史的イデオロギーを分析したことにある。ホーソーンの作品を、ソローやエマソン、クーパーなど､様々な 19 世紀アメリカ･ルネッサンスを代表する作家達の作品と比較しながら、彼らのテクストに描かれる 19 世紀アメリカの風景や場所や空間が、どのような歴史的･政治的イデオロギーを孕んでいるのか、またそれが作家たちによってどのように認識されているかを検証し、その成果を最終的に博士学位請求論文の形でまとめた。

研究成果の概要（英文）：The good results of this study come from the analysis of historical ideologies represented in the landscapes, places or spaces described in the works by American Renaissance writers, especially those by Nathaniel Hawthorne, conducted by employing the recent academic approaches to landscapes or spaces in the various fields from ecology to geography and ecological literary criticism. This study shows how strongly the contemporary political ideologies beneath such symbolic or mythical images and discussions of place such as wilderness, frontier, city, or utopian communities prevailed in the nineteenth century are reflected in the works of the antebellum American writers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	800,000	0	800,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総　計	1,600,000	240,000	1,840,000

研究分野：アメリカ文学
科研費の分科・細目：文学　　英米・英語圏文学
キーワード：19 世紀アメリカ文学、アメリカン・ルネッサンス、ナサニエル・ホーソーン

１．研究開始当初の背景

アメリカン・スタディーズが学問的に確立しだした半世紀前には、Ｈ・Ｎ・スミスやレオ・マークス、あるいはペリー・ミラーらアメリカ研究者たちが、ウィルダネスやパストラル、フロンティアといった、アメ

リカの神話的・象徴的空間や場所のイメージが、どのように形成され、伝承され、国家の文化的イコンへとなっていったかを分析していた。特に文学研究においては、そのような先行研究のおかげで、各時代の作家たちがどのように場所や空間の文化的イメージをその作品に反映させていたかが徐々に明らかにされていった。地理学や風景学、環境生態学などの知見が、学問分野を超えて幅広く共有されている現在、環境文学の研究も盛んに行われ、そのようなアメリカ的場所や空間の国家的イメージに潜む政治的イデオロギーに、作家たちがどう反応していったのか、また現実の場所や空間の表象にそのようなイデオロギーがどう関与しているかにも関心が寄せられている。しかし環境文学の研究においては、もっぱら自然について語ったり、描いたりしている作家たちの作品に焦点が当てられ、同時代のポーやホーソーンといった、フィクション作家たちの作品における場所表象、空間表象に十分な焦点が当てられ、考察が深められているとはいえない状況であった。そこで、西部やフロンティアといった場所や空間にまつわるアメリカ的神話やシンボルなどの先行研究や、ウィルダネス概念の歴史的考察などを改めて再考しながら、同時代の 19 世紀アメリカ東部において作家たちに実際に観察描写された場所や空間がどう表象され、そこにどのような同時代的イデオロギーが反映されているのかを考察する必要があった。

２．研究の目的

本研究の第一の目的は、19 世紀前半から中葉にかけてのアメリカ・ルネサンスの文学研究、特にナサニエル・ホーソーンの諸作品の研究に、昨今の生態学、歴史学、地理学、社会学、あるいは哲学など、様々な学問領域で進んできている風景論や景観論といった極めて学際的な研究成果を取り入れることで、作品に表象されている風景や、場所、空間などの歴史的イデオロギー性を分析することにある。ホーソーンの作品を、ソローやエマソン、クーパーなど、様々な 19 世紀アメリカ・ルネッサンス期を代表する作家達の作品と比較しながら、彼らのテクストに描かれる 19 世紀アメリカの風景や場所や空間が、どのような歴史的・政治的イデオロギーを孕んでいるのか、またそれが作家たちによってどのように認識されているか、あるいはいないのかを検証し、明らかにすることを目指した。

３．研究の方法

①ウィルダネス概念の歴史的変遷、②シンボル及び実体としてのフロンティアとアメリカ西部、③19 世紀ユートピア建設運動と終末思想の三つの項目を中心に、これらがホーソーンをはじめとするアメリカ・ルネッサンス期の作家達の作品でどのように表象されてきたかを研究し、現地及び国内での資料収集によって、より豊富な資料的裏付けをもとに分析した結果を、論文や学会等の場で発表する。

４．研究成果

平成19年度の研究成果としては、イギリス・ロマン派学会中四国支部第28回大会におけるシンポジウム＜ヴィクトリア朝時代のホーソーン―ホーソーンの創作活動と周囲の人々との軋轢＞で、ホーソーンがイギリス滞在経験をもとに執筆した*Our Old Home*を取り上げ、パネリストの一人として発表した原稿を改稿した拙論が、『英詩評論』第23号に「ホーソーン家の"terrible hornet's nest"―作家と作品とその評価を巡って―」として掲載された。また本研究課題達成のために不可欠な現地調査のために、9月にはアメリカ合衆国東海岸各地の大学や図書館等を訪れ資料収集を行い、その際には、19世紀アメリカ・ルネッサンス期を代表する作家ホーソーンの妻ソファイアや、当時のボストンにおける有力な女性知識人の一人、エリザベス・ピーボディら姉妹の伝記を綴った*Peabody Sisters*の翻訳を進めるため、原著者であるMegan Marshall女史をボストンのEmerson Collegeに訪れ、質問や確認等の作業を行った。1月には共著『エコトピアと環境正義の文学――日米より展望する　広島からユッカマウンテンへ』が晃洋書房より刊行され、そこに拙論「人工のエデン、廃墟のアメリカ――Ｊ・Ｆ・クーパーとホーソーンのユートピア批評」および、共同執筆したユートピア文献案内が所収された。3月には研究課題でもある、アメリカ・ルネッサンス作家たちと現代のネイチャーライターたちのウィルダネス観を比較しつつ、ホーソーンのウィルダネス観をその作品に探る発表を二つ（「ホーソーンとウィルダネス―＜他者＞への接近」（平成19年度第3回アメリカ・エスニック文学研究会、3月7日、於広島大学）および「森の光と文明の闇と―ホーソーンのウィルダネス再考」（第30回日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会、3月29日、於福岡大学）行った。

平成20年度には、平成19年度、20年度に収集した資料に基づいて執筆した論文や学会発表を始め、これまでのすべての研究成果を、学位請求論文『ナサニエル・ホーソーンの場所表象―ウィルダネスからユートピアへ―』としてまとめ、広島大学文学研究科に提出、

博士（文学）号を授与されたことが一番大きな成果である。その他、研究論文として、「ホーソーンとウィルダネス―＜他者＞への接近」（アメリカ・エスニック文学研究No.5、2009年3月）を発表、学会発表としては、6月8日にノートルダム清心女子大学で開催された中四国アメリカ文学会第37回大会において、シンポジウム「Hawthorneと19世紀アメリカ社会」の中で発表者の一人として、「19世紀版＜丘の上の町＞―ホーソーンとシェーカーとユートピア運動」と題して発表を行った。

平成21年度は、当研究課題への取り組み最終年度ということもあり、主にこれまで三年間の研究成果を国内外で発表することを主な目標とし、二年間で収集した資料をもとに、昨年度博士号を授与された学位請求論文『ナサニエル・ホーソーンの場所表象―ウィルダネスからユートピアへ―』の出版に向けて、現在も原稿の整理や加筆修正に取り組んでいる最中である。発表としては以下の二点を行った。一つは6月3日から6日にかけて、カナダのヴィクトリア大学で開催された文学と環境の学会、ＡＳＬＥ（Association for the Study of Literature and Environment）の年次大会において、大会のテーマが「island」であったことから、ホーソーンの代表作『緋文字』と、日本は東京の向島を舞台にした作品を取り上げ、作品に表象されるメタファーとしての、あるいは地理的な「島」とヒロインとの関わりについて比較考察する国際学会発表を行った。もう一点は、同じく環境視点での文学批評を研究するエコクリティシズム研究会の年次大会で、「多文化主義的ネイチャーライティングの現在」と題するワークショップを主宰し、文学における環境とエスニシティとの結び付きを議論した。概して、古典アメリカ文学の作品分析に、風景論や「場所の感覚」といった最新のエコクリティシズムのアプローチを取り込んだことに、この研究テーマの大きな意義があったといえるだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
①城戸光世、19 世紀版＜丘の上の町＞―ホーソーンとシェーカー、中・四国アメリカ文学研究、査読有、第 45 号、2009、pp.35-38
②城戸光世、ホーソーンとウィルダネス―＜他者＞への接近、アメリカ・エスニック文学研究、査読なし、No.5、2009 年、pp. 46-65
③ 城戸光世 、ホーソーン家の"terrible hornet's nest"―作家と作品とその評価を巡って―、英詩評論、査読有、第 23 号、2007、pp. 42-51
④城戸光世、＜コンタクト・ゾーン＞としてのフロンティア―ホーソーンのネイティヴ・アメリカン表象、アメリカ・エスニック文学研究、査読なし、No.3、2007、pp.15-28

〔学会発表〕（計４件）
①Mitsuyo Kido, Mukoujima and Colonial Massachusetts: “Patrie of Bell-Towers” for Women in Japanese and American Literature 、 2009 ASLE Conference 、 University of Victoria（カナダ）、2009 年 6 月 4 日
②城戸光世、19 世紀版＜丘の上の町＞――ホーソーンとシェーカーとユートピア運動（シンポジウム「Hawthorneと 19 世紀アメリカ社会」）、中四国アメリカ文学会第 37 回大会、ノートルダム清心女子大学、6 月 8 日
③城戸光世、森の光と文明の闇と―ホーソーンのウィルダネス再考、第 30 回日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会、福岡大学、2008 年 3 月 29 日
④城戸光世、ホーソーンとウィルダネス―＜他者＞への接近、平成 19 年度第 3 回アメリカ・エスニック文学研究会、広島大学、2008 年 3 月 7 日

〔図書〕（計１件）
伊藤詔子、横田由里、吉田美津、城戸光世他、『エコトピアと環境正義の文学―日米より展望する　広島からユッカマウンテンへ』、晃洋書房、2008、pp.21-36、巻末pp.13-22

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
○書評
福岡和子著『「他者」で読むアメリカン・ルネサンス―メルヴィル・ホーソーン・ポウ・ストウ』、『フォーラム』第 13 号、日本ナサニエル・ホーソーン協会、2008、pp.71-76

６．研究組織
(1)研究代表者
城戸　光世（Kido Mitsuyo）
北九州市立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：10351991